



七大戦総合優勝後の全体写真  
全員がとてもいい顔をしている。

## 七大戦 総合優勝 in 葉山

平素よりお世話になっております。88代主将の4回の石橋和樹です。7月15日から17日まで3日間に渡り行われた第62回全国七大学総合体育大会ヨット競技について報告させていただきます。

七大学戦総合優勝を目標として挑んだ今大会。470級優勝、スナイプ級準優勝、総合成績優勝となり、見事目標を達成することができました。この結果はまさしく総合力で勝ち取ったものだと考えています。

戦略的に戦えた背景の一つに沖レスキューチームのサポート力が挙げられます。トラブル艇に対し、皆で試行錯誤して、急ぎながらもなんとか形にして出艇していました。また、風の傾向を事細かに教えていただきました。チームとして戦っていくのだという意識。そこが大変頼もしかったです。

次にチーム力について、SNS、レセプション、バースの雰囲気という点で述べます。いつも通りの丁寧なSNS発信には頭が上がりません。レセプションについて。あんなに面白い芸だしができる1.2回生は凄いなと思いました。バースの雰囲気について。とても明るく見ているだけで元気になりました。特に1年生の青田君を中心とした全員からのエールは元気をもらいました。抜け目ない書類処理と備品もきちんと整理されていること。そして、皆で戦ってチーム全体で結果を喜んでいたこと。今年のチームとしての勢い、ポテンシャルのようなものを感じる大会になりました。今後も感謝とともに全員で目標を獲りに行きます。

全日本インカレまで残すところあと90日程度です。泣いても笑っても引退です。11月5日に悔いのない顔をして、インカレ後に全体ミーティングができるように、チーム一丸となって、残り3か月駆け抜けます。



## 近畿北陸学生ヨット選手権個人戦予選 470級



いつもお世話になっております。三回生470スキッパーの抜井理紗です。7/1,2に富山・新湊にて行われた個人戦予選について報告いたします。各クラス上位6艇に与えられる全日本個人戦の出場権を得るため、私たちは前々からこの大会に照準を置いて調整してきました。迎えた初日はしかし、雨、無風、さらに霧というあいにくの天候でノーレース。勝負のかかる2日目は、安定した西風でテンポ良く4レースを消化しました。次第に吹き上がる風、しかもフレの大きい難しい海面で、強風の帆走力とフレに合わせた的確なコース取りが求められました。最終的に京大からは470、スナイプ1艇ずつの予選通過となりました。通過した選手もそうでない選手も、この夏で一層レベルアップできるよう精一杯頑張っております。

## 近畿北陸学生ヨット選手権個人戦 snipe級



お世話になっております。三回生スナイプクルーの谷田夏樹です。7/1,2に開催されました個人戦予選の報告をさせていただきます。1日目は1レースも行われませんでした。朝から雨が降り不安定な天気で風に恵まれず2時間ほど風待ちをしたのち、12:00ごろにスタートしました。しかし、2上途中に濃霧で急激に視界が悪くなりノーレースとなりました。2日目は西寄りの風で安定するとフルパワー~オーバーで4レースが行われました。次第に吹き上がってくると沈む艇も見られ1日目と大きく異なるコンディションでレースが行われました。結果としては470、スナイプ1艇ずつの通過となりました。個人戦出場を目標としてきて悔しい思いをした部員も多いですが、部員一同気持ちを切り替え練習に励んでいきます。

## 関東フリート

お世話になっております。四回生470スキッパーで470リーダーの小澤諒真です。5/27から二日間実施されました関東フリートについてご報告致します。初日はオンデッキからセミトラッピーズ、二日目はオーバーパワーの非常に安定したコンディションでの実施となりました。例年通り関東水域のレベルは非常に高く、京都大学が全国区でどの程度通用するかを確認するのに十分な条件が揃っていました。初日は艇速によるディスアドバンテージが少なく、昨年度よりもよい結果が残せた一方で、二日目は高い波での帆走に苦戦する船が多く、またトラブルによって出場できない船もみられました。今後はアルファベットへの意識をチームで再確認し、激しいコンディションでの帆走を改善すべく遠征や外部からのコーチングを取り入れていく所存でございますので今後とも変わらぬご支援のほどをよろしくお願い致します。



## 江の島スナイプ

お世話になっております。四回生スナイプスキッパーの山崎慧太です。5/27,5/28に行われました第三回江の島スナイプについてご報告させていただきます。本レガッタは83艇参加の超ビックフリートでの開催でした。5kts程度の軽風から15kts超の大きなうねりを伴う江の島らしい海面まで様々なコンディションの中で6R消化されました。関東の高レベルなフリートに参加し、ポートスピードやタクティクスなど多くの面で実力不足を痛感させられた一方で、鈴木・谷田艇はシングルを含む安定した順位で学生3位と好成績を残すなど、京大艇が存在感を見せる場面も多々ありました。この貴重な経験を糧にインカレ本選に向けて練習に取り組んでいく所存です。







## 琵琶湖SC 470級

お世話になっております。二回生470クルーの原田真吾です。6/3-4に行われました琵琶湖セーリングチャンピオンシップについて報告させていただきます。今大会は今年の自分の目標である全日本470出場がかかった大会でもあり、特別な思い入れを持って望んだレースでした。1日目は20ktsを超える強風コンディションでのレースとなりましたが、ベアの体重を活かしてなんとか選考基準の暫定10位で4レースを終える事ができました。2日目は苦手な軽風で少し順位を落としてしまいましたが、結果としては12位でレースを終了し、上位陣に辞退者がいた関係で運よく全日本選手権への切符を手にする事ができました。9月に宮城にて行われる全日本選手権はハイレベルな選手が集う大会でもあるため様々な事を学んで参りたいと思います。これからも応援よろしくお祈りいたします。



## 琵琶湖SC snipe級

お世話になっております。四回生スナイプスキッパーの鈴木優志です。6/3-4に行われた琵琶湖セーリングチャンピオンシップについて報告させていただきます。1日目は北からの吹き上がったコンディション、2日目は風が南から北に回る軽風でレースが行われました。1日目強風下でのレースでトラブル艇が数艇発生し、自艇としても沈によりランチャーポールを折ってしまいました。まずは日頃の整備しかり安全第一に帆走をする事が大事だと実感しました。またスナイプは全日本スナイプの出場枠がかかった大会でもありましたが、京大の中で枠を獲得した艇はいませんでした。個人としてもトップ層との壁を感じたレースとなりました。この壁を越えられるよう夏の練習に精一杯励んで参ります。

## 近畿北陸学生ヨット夏季大会 470級

お世話になっております。二回生470クルーの玉木翔大です。今回は、6月24日、25日に富山で行われたプレについてご報告させていただきます。1日目は、風が大きく振れたり、風がなくなったりと、悪いコンディションの中、1度だけ同回のスキッパーである岸本と11位という高順位を記録出来ました。1上順位から落とさないレース展開が出来たので自分たちの成長を感じる事が出来たと思います。2日目は、1日目とは違い安定した強風でのレースで、あまり良い順位がとれなかったのが、先輩方との実力の差を感じました。この経験を糧にこれからも精進していきたいと思っております。お読みいただきありがとうございます。



## 近畿北陸学生ヨット夏季大会 snipe級

お世話になっております。二回生スナイプスキッパーの倉田章史です。今回は、6月24日、25日に富山で行われたプレのレースについてご報告させていただきます。1日目は、風が弱くて大きく振れがちでした。初めての海はしょっぱく、沖に持っていったゼリー飲料が美味しく感じました。スキッパーとして、スタート前に空きスペースを見つけて並び、フライングしないようにスピードを調節するという攻防が楽しかったです。2日目は、安定した強風が吹きました。長いレグでのハイクアウトによって自分の脚の筋肉の至らなさと、クルーと一緒にハイクアウトせざるを得ないスナイプという種別の楽しさを知ることができました。この遠征で見つけた課題を一つ一つ潰して成長してまいると思います。お読みいただきありがとうございます。



日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。まずは、フレッシュな一回生のお二人です。  
塩田まほら(1),後藤颯太(1)



470 スキッパー

## 塩田 まほら

東京都立西高校ハンドボール部出身。文学部。初対面であってもすぐに仲良くなれてしまう高いコミュ力を持つ塩田。七大戦でもその力が大いに発揮され、他大に多くの友達ができたそう。ヨットに対する熱い心も秘めており、今後の成長が期待される。

### Q.これまでの部活を振り返って

A.5月から7月の期間、一回生はホッパーに乗り基本の動作を練習していました。はじめは沈してばかりでしたが、先輩方が丁寧にアドバイスしてくださり少しずつ慣れていきました。特に座学で学んだことを実際に沖で再現することに苦労したのに加え、ヨットは経験やそれに基づく感覚が重要であることを教わったことで知識だけでなく実践を意識しながら練習していこうと思いました。練習後の同期との情報共有の時間でも多くの学びがあり、周りの熱量に刺激をうける3か月でした。

### Q.自分の強み

A.性格に関して部活に生かせそうな強みとしては、思ったことをはっきり主張できる点だと思います。中高ともに体育会系に所属していたのですがプレー中に気になったこと、また人間関係で揉めた際に相手に非があると思うことはすぐに伝えていました。気が強いと言われることもありますが変に気を使うことにメリットを感じられません。ヨットもペアとの呼吸を合わせる事が大切だと思うので、お互いを尊重しつつ思うことを主張しあって協力していけたらいいと思います。

### Q.京大ヨット部の好きなおとこ

A.京大ヨット部の好きなおとこは部内のあたたかい雰囲気です。新歓のときヨットの試乗の楽しさだけでなく先輩方のアットホームな様子に惹かれて入部を決めました。京大が強い理由は先輩方の努力、技術はもちろんのことプレッシャー下にある中でレースメンバーが普段通りのパフォーマンスができるような周囲の雰囲気づくりにもあると感じました。このような京大のスタンスを大切にしながら練習に真剣に取り組んでいこうと思います。

### Q.平日していること

A.平日はアイドル鑑賞をしたり高校からの友達と自炊をしたりしています。アイドルはモーニング娘。が好きで生歌で激しいダンスをする彼女たちを見ると明日への活力がわきます。孤食が寂しいときに友達の家でたわいない会話をしながらご飯を食べるのはとても幸せです。後期はもっとうまく履修登録をし、平日にヨットの自主練に行けるようにして、技術を磨いていきたいと考えています。



snipe スキッパー

## 後藤 颯太

兵庫県長田高校卓球部出身。工学部工業化学科。クールな外見とは裏腹に、話しかけると100で返してくれたり急に歌いだしたりするごていー。レスキューに乗っているときも歌うのだから。中高の卓球部で鍛え上げられたスポーツ魂で、ヨットの上達も間違いなし。

### Q.これまでの部活を振り返って

A.一回生は、7月までの間ホッパーに乗ってヨットの基本の動作を学びました。最初は本当に何をしたらいいかわからなくてたくさん沈しましたが、先輩たちによる座学や、実際に一緒に乗って指導して下さったおかげで少しずつですが増えることができました。座学で習ったことを実践するのは難しいですが、できたときはヨットのスピードが出てとても楽しいです。クラス分けも終わり、ついにダブルハンドでの練習が始まるので、これまで習ったことをもう一度復習し、実践に活かしたいと思います。

### Q.京大ヨット部の好きなおとこ

A.京大ヨット部の好きなおとこはやはり雰囲気です。同期はもちろん、先輩達は面白い人や優しい人ばかりで、話したり活動したりしてとても楽しいです。京大ヨット部のおもしろい雰囲気や楽しい雰囲気は入部を決めた大きな要因のひとつで、練習が本当に楽しいので毎週週末が待ち遠しいです。一回生ということもあり、練習で会って話すたびにその人の新しい一面が垣間見えたりしておもしろいです。京大ヨット部は本当に色々な人が集まっています。楽しいところですよ。

### Q.平日していること

A.平日は基本的に家でだらだらYouTubeを見たり、友達とカラオケに行ったりしています。YouTubeは音楽を聴くことが多く、最近では好きなアーティストMrs.GREENAPPLEのニューアルバム「ANTENNA」をよく聴いています。また、水曜日の午後には友達と課題を一緒にやって、そのままカラオケで歌うことが多いです。歌うのは好きなので、すごくストレス発散になって楽しいです。ヨット部のみんなと行ったときも盛り上がりがあったので、またみんなで行ってみたいです。

### Q.今後の目標

A.これからの目標は、ダブルハンドの練習に慣れることです。一回生はホッパー期間を終えて、ダブルハンドの練習が始まります。ホッパー練でヨットの基礎の部分は学べたと思っていますが、これからはダブルハンドの練習になるので、ホッパーとは違った部分も出てくると思います。僕はスナイプスキッパーに決まったので、スナイプ艇の機装や解装、スナイプスキッパーの練習のメニューなど、ホッパー練と違うところを早く覚えて、技術的なことに集中できるようにしたいです。



日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。続いてはついに先輩になってしまった二回生の二人です。  
溝脇大智(2),宮本航太郎(2)



470 スキッパー

## 溝脇 大智

大阪府高槻高校電気物理研究部出身。工学部工業化学科。無線が大好きで自作のアンテナで南極と交信してしまうような変態溝脇。しかしその有能ぶりやヨット技術から仲間からの信頼は厚い。

### Q.これまでの部活を振り返って

A.実はホッパー期間中はヨットを楽しいと感じられなかったのですが、470に乗り始めてから一気に楽しくなりました。ヨットの知識が増えることや強風(今から思えば順風)の中を走れていることが純粋にうれしかったです。秋にはレースで前を走れた時の気持ちよさを知り、春はシート加工にはまりました。また、新歓を通してチームをまとめる経験を積むことができ、ヨット以外の面でも大きく成長した一年だったと思います。

### Q.尊敬する先輩

A.尊敬する先輩は4回生の中根先輩です。野球部出身の中根さんは身のこなしが軽やかで、特に微風ロールタックやロッキングで船を起こす動作がきれいです。涼しい顔でハイクアウトしながら強風クローズを爆走したり、強風ランニングでメインパンプし続けたりする姿に憧れます。夏合宿では1回生教育の傍ら、中根さんのようなきれいな動作のできる470スキッパーを目指して練習に励みます。

### Q.思い出のレース

A.フィニッシュ7位という好成绩をとれた先月のプレ第2レースです。スタート直後にフレッシュをとり右に出したところ、風が右に大きく振られて1上は3位でした。前回京大内1位のフィニッシュ順位を残したのは昨年秋のプレプレで、先輩クルーに手取り足取り教えてもらいながら乗っていました。今回は同期の豊田君との下級生ペアであったことと、初めての富山の海でのレースであったこともあいまってとてもうれしかったです。

### Q.ペアについて

A.下級生は乗り変わりが多く固定ペアではありませんが、今回は同期の森田君を紹介しようと思います。彼は90期の中でもムキムキの470クルーで、テスト期間中であってもサボらずジムに通うほど熱心です。そのため、彼と乗る強風クローズはとても走りやすいです。学科が同じこともあり、一緒に授業を受けたり自主練に行ったりと、切磋琢磨しあう存在です。また、彼は学連委員長候補として学連でも積極的に活動しています。



snipe スキッパー

## 宮本 航太郎

奈良県東大寺学園高校ロケット同好会出身。工学部電気電子工学科。人より沢山仕事をしているのに皆から軽鎮と呼ばれる不憫キャラみやこう。陸では不憫な彼だが、ひとたび沖に出ると、どんな風もそつなく乗りこなすオラオラ系セーラーに変身する。

### Q.これまでの部活を振り返って

A.僕がヨット部に入って一年半が過ぎようとしていることに驚きを隠せません。ダブルハンドに乗り始めてからはちょうど一年ほどですが、練習を重ねるごとに先輩の凄さと遠さを実感します。正直に述べさせていただくと、ヨット部の今までの時間はあっという間に過ぎてしまったので、あと2年で今の先輩のようになれるか不安です。ですが、先輩達も地道に努力して今の技術があると思うので、焦らずに自分のできることを全力でやってみようと思います。

### Q.京大ヨット部の好きなおとこ

A.僕の京大ヨット部の好きなおところは、雰囲気です。僕が入部する決め手になったのも雰囲気でした。チーム全体がまとまっていて結果もしっかり出しつつ、殺伐としておらず居心地が良いところが好きです。代が替わるごとに雰囲気も少し変わりますが、良いところははずっと受け継がれているように感じます。京大ヨット部の強さの一つの要因はこの雰囲気の良いさだと思っているので、これからも受け継いでいけるようにしたいです。

### Q.平日していること

A.最近はサウナにハマっています。僕は奈良に住んでいるので、夜に京都でバイトがある時は友人の家に泊めてもらっているのですが、バイト後にその友人と銭湯に行ってサウナで整うのがバイトがある時のルーティンとなっています。サウナが健康に良いのかは知りませんが、サウナ後の水風呂が気持ち良すぎるのでサウナが健康に悪いとしても僕はサウナに入り続けると思います。ただサウナに入った後は友人も僕もテンションが上がってしまっていて、そのまま徹夜でカラオケに突入してしまうこともあったのでそれは気を付けたいと思います。

### Q.尊敬する先輩

A.尊敬する先輩は山崎さんです。僕が一回生の時下級生教育の期間に、山崎さんと乗せてもらう機会が多かったです。僕が精神的にしんどい時にたくさん褒めて下さって、もう少し頑張ってみようと思えたことを覚えています。こんなに良い先輩達が僕たち一回生のために僕らに合わせた練習をしてくれているんだから早く上手くならないといけないと感じ、より一層練習のモチベーションにもなりました。僕も今年は一回生を教育する立場になるので、山崎さんのように先輩を支えられたいと思います。

日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。最後は我らのご意見番。上回生の二人です。  
十枝航太(4),峰岡拓真(3)



470 スキッパー

十枝 航太

香川県高松高校ヨット部出身。理学部。入学時に時空が歪んでしまった十枝さんは我らが長老として先輩後輩問わず皆から愛のあるいじりをほしいまにしている。しかし一度強風になると、若々しいハイクアウトで他艇をゴリゴリ蹴散らしていくその姿には、ギャップを感じざるを得ない。

Q.ペアについて

A.私はペアをリードできるような技術力を持ったスキッパーではないので、ペアと互いに助け合いながら、なんなら時にリードされながら走ってきました。上手いクルーと組んだ時に技術的なブレイクスルーが起きたことも一度や二度ではありません。また、メンタル的な部分でも、パッション溢れるクルーに引っ張ってもらったことがあり、自分にとってそれは大きなことでした。ここまでやってこれたのも今まで乗ってくれたクルーの人たちのお陰です。これからも目標目指して共に高め合おうと強く思っています。

Q.尊敬する先輩

A.私の尊敬する先輩は、一個上の古澤章太郎さんです。章太郎さんのレースで結果を出したり、練習で皆を引っ張っていったりする姿はすごく憧れでした。また、昨年の470リーダーとしてのレースメンバー以外にも気を回していただいた裁量にはとても感謝しています。そして何よりも章太郎さんは顔が良いです。顔が良くてヨットも上手いとあれば、尊敬、憧憬の念を向けざるをえないですね。顔はともかく、ヨットの技術的なところでは章太郎さんに近づけるよう努力していく所存です。

Q.京大ヨット部の好きなおところ

A.やはり個性に溢れる人たちが多いということが挙げられます。何かしら他人より秀でたところを持っていて尊敬できるなっていう人が回生問わず多くいますし、全員が全員その個性でもって、面白いネタが満載の事件というか出来事を頻発させるので退屈することがありません。そういう感じで様々な人が集まってのびのびと活動しているというのは、京大ヨット部の懐の深さがなせる業ですごく良いところだと思っています。

Q.今後の目標

A.私の課題の一つは波のある海面の克服です。クローズにおいて、平水面であれば艇速には多少自信があるのですが、大きな波が出てくると自分の出せる最大速度が出せていないように感じ、波に対して苦手意識をもっています。私は比較的体重の重いスキッパーで、それが活きるのは強風なのですが、強風になると苦手な波のある海面になるというジレンマを抱えています。これを克服し、少なくとも強風要員としてチームから信頼され、団体戦のレースを任せてもらえるようになることが団体戦予選・本戦までの大きな目標です。



snipe スキッパー

峰岡 拓真

福岡県修猷館高校ヨット部出身。工学部物理工学科。ヨットのことも何でも知っていて、何を聞いてもなんでも答えてくれるので後輩にありがたがられている。またヨット愛がバグっていることも有名で、テスト期間にヨットゲームにはまって世界一位になり、日本代表選手から大会への出場を勧められたという経歴を持つ。

Q.思い出のレース

A.私の思い出のレースは、去年のインカレ前の同志社とのコース練習です。本来のペアの優希さんが女子インカレに出ていたため、クルーは1つ上の先輩の堀内さん。その日は東風強風フレフレ。僕らはど下有利の中上ピン即タック右く。爆振れを掴んで一上1位。その後フィニッシュまでキープしたのですが、一下なんかもうドッキドキ。たかがコース練なのにフィニッシュでガッツポーズしてしまいました。ああ恥ずかし。当時の2-3回生ペアでも十分戦えることが分かり自信がついたレースでした。

Q.ペアについて

A.現在は1つ下の後輩の高槻とペアを組ませて頂いております。ペアを組み始めた最初の頃は、“下級生！これから頑張ります！”のような感じで、まだまだ上回生とは技術や経験などの差が沢山ある感じだったのですが、日々メキメキ上達していき、ヒールトリムなんかは上回生に勝るとも劣らないレベルになりました。そんな(物理的にも)大きくなった背中に、事あるごとに勇気づけられています。何より面白くてめっちゃいいやつ。

Q.京大ヨット部の好きなおところ

A.私は高校でも福岡県の修猷館高校という高校でヨット部に所属していました。そこで京大ヨット部が強豪であることを知り、強豪であるということからは、先輩にとっても厳しくしごかれたり、練習もとても厳しく殺伐とした雰囲気で行っていたりしているのかと想像しながら入部をしましたが、蓋を開けてみるとなんとまあ優しい先輩の数々。そんな部員全員を思いやる雰囲気大好きです。

Q.今後の目標

A.私のヨット部生活は大学からヨットを始めた同期の教育からスタートしたのですが、その頃は右も左も(スターボードもポートも)わからなかったみどりもなつきもみねのもりようやも(まさしもくらもまさしめちやくちや上手くなって今ではみんなレースメンバー候補。りさはもちろん。私の目標は、この今では上回生となった同期たちと頼もしくなった先輩たちと来年のインカレで総合優勝することです。



## 七大戦監督所感

監督の田中です。七大戦の引率に行きましたのでご報告致します。七大戦は旧帝大の親睦を深めつつ、インカレまでのレベルアップを図る定期戦です。昨年優勝した京大は2連覇が懸かります。これまで挑戦者の立場が多かった京大ですが、ディフェンディングチャンピオンの立場は私の知る限りでは初めての今回。選手は普段にない緊張に包まれていたように思います。

しかし沖サポートは休むことなく海面の情報を提供し、陸サポートは手続き関係を行い、考えうる最大のパフォーマンスで選手をサポートしました。選手の緊張感は次第に和らぎ、まるでホームのような普段通りの走りを見せ、無事に総合連覇を勝ち取りました。

来たるインカレや次の七大戦では更に大きな重圧が選手にかかります。しかし今回のように手厚いサポートが選手を支え、チーム全体で勝つスタイルが京大の定石となりつつあります。

このプレースタイルを継続できるよう、セーリングの技術力のみならずチーム力にも磨きをかけてまいります。引き続きご声援賜りますと幸いです。



## 七大戦陸サポート

お世話になっております。三回生の峰野晴です。七大戦での陸サポートについて報告させていただきます。今回の陸サポートメンバーは1、2回生が中心の構成ながらも全員が一つ以上の役割を担っており、下級生たちの頼もしさを感じる場面が何度もありました。出着艇前後のサポート、各種手続きや得点計算など、どれも重要な仕事ばかりでしたが、ペナルティによる加点のないまま、全員が仕事を全うすることができました。

レースメンバーが優勝旗を掲げて帰ってくるのを迎えられたのは何よりの喜びでした。興奮の中、団体戦は部員全員の戦いだという言葉が噛みしめられました。この学びをインカレでも活かせるよう、今後もチーム一丸となって戦って参ります。



## 七大戦沖サポート

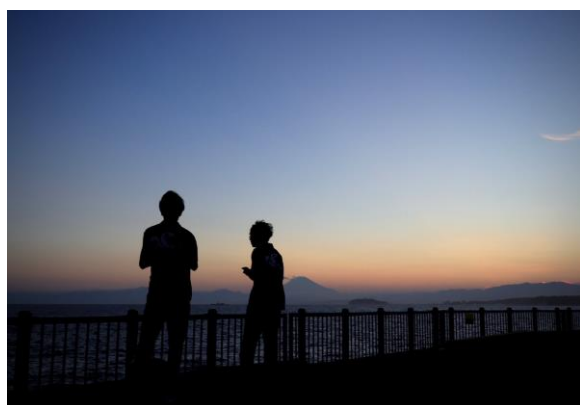
お世話になっております。四回生マネージャーの畑中翔です。七代戦での沖サポートについて書かせて頂きます。今回は1艇のレスキューに両クラスの交代要員が相乗りするという体制でサポートをしました。プレイヤーが積極的に風を測って傾向を分析し、レースメンバーに情報を伝えているのが印象的でした。実際にその傾向を駆使し、前を走る場面が何度も見られました。久しぶりの団体戦でしたが、クラスの垣根を越えてチーム全体で勝つためにそれぞれが行動し、総合優勝できたことは今後の団体戦に向けて良いイメージができたと思います。インカレ予選、インカレでも総合3位に導くサポートができるように尽力します。



## 七大戦 クラス分け

お世話になっております。一回生の谷口愛実です。七大戦において行われた一回生のクラス分けについて報告させていただきます。

クラス分けにあたって、470とスナイプ、そしてクルーとスキッパーのどちらになりたいかの希望を夜の公園で二日間話し合いました。それぞれの希望が予想通りであったり、意外であったりして面白かったです。念願の二人乗りヨットへの移行なので精一杯楽しみたいと思います。



## 思い出のレスキュー

お世話になっております。二回生マネージャーの吉塚千尋です。私の思い出のレスキューは、6月に富山の新湊マリーナで行われたプレと個人戦予選です。このレースは私にとって初めての海での出艇で、期待と不安でいっぱいでした。海は琵琶湖とは違い、波が大きく岸からも遠いため、運転するのに非常に苦労しました。慣れない環境でのレスキューは難しく、たくさんの反省と学びがあるレースでした。この経験をこれからに繋げていきたいと思えます。



## 思い出のレスキュー

こんにちは。四回生マネージャーの豊永菜緒です。私の思い出のレスキューは、インカレの最終日です。部旗を掲げ、ハーバーに帰るヨットを曳航した時には一年間の全てが報われた気持ちで涙が止まりませんでした。数えきれないほどの思い出のレスキューがあります。選手の喜び、雄叫び、悔し涙、居眠り、死にかけ、笑い声など色々な感情と想いを乗せて運転して来ましたが残り3ヶ月となりましたが残りも全力でサポートしていきます！



## 思い出のマネ飯

お世話になっております。2回生マネージャーの上野莉子です。今回は思い出のマネ飯について書かせて頂きます。それは、春合宿最終日だからと言って張り切って作った「煮込みハンバーグ」です。実は、ハンバーグを焼いて、別で作ったソースをかけたので煮込みではないというのはここだけの秘密です。部員からマネ飯が部活を頑張るモチベーションの1つになっていると聞きました。これからもお腹いっぱい幸せいっぱいになる美味しいマネ飯作りに努めます！



なぜか母の味がして十代にしてこの味を出せるのかと驚いた記憶があります。

88代某プレイヤー

## 思い出のマネ飯

お世話になっております。2回生マネージャーの高橋香琳です。今回は、思い出のマネ飯について書かせていただきます。私が思い出に残っているマネ飯は、「夏野菜カレー」です。このマネ飯は、夏と言えば！の夏野菜を全て詰め込み素揚げにして、カレーのルーは大きなトマト缶を2個使用してトマトカレーに仕上げました。盛り付けにもこだわり、マネ飯はオシャレになる日もあります。色々なマネ飯を作って、これからも部員にマネ飯を楽しんでもらえるように尽力します！



素揚げにしていたことで、食感の楽しみも増えてうれしかった記憶があります。

90代某プレイヤー

他にも公式のインスタグラムのアカウントとは別に、今まで作ってきた紹介しきれないほどのたくさんのおいしいマネ飯を発信しているインスタのアカウントがあるので、是非そちらもご覧ください！  
右のQRコードを読んでいただくか、  
[https://instagram.com/kuyc\\_food?igshid=MzRlODBiNWFlZA==](https://instagram.com/kuyc_food?igshid=MzRlODBiNWFlZA==)  
こちらのリンクから飛んでいただくと閲覧可能です。



京都大学体育会ヨット部  
滋賀県大津市鏡が浜番外大  
京大ヨット部艇庫

[tel] 077-525-0312  
[hp] <https://www.kuyc-home.com/>  
[mail] [kuyc.2013@gmail.com](mailto:kuyc.2013@gmail.com)  
[twitter] <https://twitter.com/kuyc>  
[facebook] <https://www.facebook.com/kyotosailing/?fref=ts>  
[instagram] [https://www.instagram.com/kuyc\\_food/?hl=ja](https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja)